

平成 31 年度（令和元年度）事業報告

平成 31 年 4 月 1 日から令和 2 年 3 月 31 日まで
特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター

1 事業の成果と課題

【成果】

本年度は 創造型の企画制作事業の基盤づくりに力をそそぐとともに、東日本大震災からの文化復興を目指す「文化芸術によるコミュニティ形成事業」、「文化振興プロジェクト事業」と、26 年度に指定管理業務を受けた「もりおか町家物語館」「宮古市民文化会館」の運営の充実を図ることを中心に、地域での創造発信事業と次世代の人材育成と教育普及及び交流事業に積極的に取り組んだ。

なお、宮古市民文化会館は、本年度から次期指定管理期間（5 か年）の指定を受け新たな二期目のスタートを切った。継続指定は、市民参加型事業や専門的な事業展開が評価されたものだが、専門家の配置と職員の地元採用を求められる中、舞台技師は全員地元採用に切り替えるとともに、プロデューサーは継続して当法人会員の専門家を配置し活動の充実を図った。こうした結果、これまでの活動が評価され令和元年度の「地域創造大賞」（総務大臣賞）をわずか再開館 5 年目で受賞した。これは、全国でも最も早い受賞の一つでもある。

もりおか町家物語館は、「風の公民館事業」が充実した実績を上げるとともに、風のスタジオで新たな「旋風の劇場」を始め、開設以来初めて、収入 300 万円以上の目標を達成した。

財源強化については、平成 30 年度の単年度赤字の反省に踏まえ、各施設の利用料金増収を図り、施設運営及び事業運営の前年比の増収増益を目指すとともに、全事業及び管理運営経費の平均 5% の縮減によって、正味財産で、平成 30 年度末の 200 万円増を目指したところ、単年度収支で、約 276 万円の増益となり、目標比で 35 ポイント増を達成した。これは、ほとんど宮古市民文化会館の自主事業で、文化庁の補助事業の採択を受けたことと、NPO による復興支援事業やいわて文化振興プロジェクトの助成で自己負担の軽減が図られたことによる。

【課題】

財務体質の強化につながる認定法人化（寄附税制の優遇措置を受けられる）を将来実現できるよう目指すため、正会員 20 名以上及び賛助会員 100 名以上の常態化を達成させるよう会員増強計画を検討や「サポーター」の増強に努めることとしたが、実効性のある計画づくりにはほど遠いものだった。

また、もりおか町家物語館は精力的な事業展開で集客を図っているが、入館者の減少傾向が令和元年度も続いた。これは展示物や地域行事のマナーなどが主因で、指定管理者のみの努力では如何ともし難く、盛岡市や盛岡まち並み塾、地域住民等との協働の強化が必要である。また、喫茶 DOMA の恒常的な 50 万円以上の赤字が積極的な事業展開を阻む素因にもなって

いる。来館者へのサービス施設であり、必ずしも黒字決算が絶対条件ではないが、収支均衡のラインが見込まれる運営方法の検討が必要である。

人材育成でも本年度は課題を残した。本部では職員2名（産休中含む）が育児や結婚で退職し、もりおか町家物語館では、若い職員3名が病気や転職で退職した。また部署に限らず、職員のコミュニケーション不足で内部の人間関係や外部との交渉事で不都合が生じた。法人のミッションの共有化、文化芸術や観光の基礎知識の習得、コミュニケーション能力の向上のため、職員研修の強化が求められた一年だった。

【新型コロナ感染拡大問題】

2月半ばから新型コロナの感染拡大による主催事業の中止または延期、各施設の利用キャンセルが続いた。そのような中で2月下旬には、当法人が音頭を取り、県や盛岡市及び県市の中心的な文化芸術や観光団体等と連携して情報交換や陳情活動をすすめ、県や盛岡市ではそれに呼応する形で、コロナによる中止または延期を余儀なくされた団体への指定管理施設の利用料の返還と財源補填を認めた。ただし、一部の団体は連携を拒み利用料返還に応じないという姿勢を取られたことは残念だった。

新型コロナ問題は、持続可能な文化芸術活動に前代未聞の障壁となって出現した。これにどう対応するかは当分の間、模索が続くと予想される。当法人の施設運営はあくまでも利用者本位を貫くとともに、コロナ問題に対しては多くの文化芸術関係者と連携し県内の文化芸術の振興に役割を果たすこととし、県内の文化芸術コーディネーターや関係団体との情報共有に努めた。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業概要	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
1 情報発信事業	1 HPの運営	岩手のアーツ情報の紹介。FBも併用（本部及び指定管理施設の相互リンク）	通年	全域	2名	閲覧 5,000回	94
	2 「風の通信」発行（毎月発行）	もりおか町家物語館通信と共同製作とする。主催事業紹介とコラム等。 リレーエッセイを載せる（HPにも同時掲載）	通年	全域	2名	会員及び利用者 約1,000名	19

2 人材 育成 事業	1 チャレンジシアター (風のスタジオ事業)	若手及び新たな企画を提携公演=利用料 35%引きで実施。	通年	盛岡	1名	2回実施 総観客数 392名	0
	2 「アーティストいわて塾」(岩手県文化振興事業助成)	40歳未満の若手舞台表現家を育成する。朗読講座、殺陣講座、和の所作、写真講座を実施。	6～11月	盛岡 二戸 宮古	1名	受講者数 55名	350
	3 ゼロからはじめる中高生のための演劇シリーズ (宮古市民文化会館事業)	宮古市民文化会館で中高生による演劇づくり事業『まちなか演劇合宿』実施。 ※事業費は「3-3 宮古市民文化会館企画事業」に合算。	1月	宮古	2名	参加者 5名 観客数 33名	—
	4 みやこ市民劇ファクトリー事業(宮古市民文化会館・文化振興プロジェクト)	みやこ市民劇参加者を中心とする市民劇継続のための活動団体へ技術研修等を支援。	通年	宮古	1名	参加者 42名	—
	5 サポーター研修	サポーター研修を風のスタジオにて2回実施した。	随時	盛岡	1名	参加者のべ 51名	0
	6 文化振興プロジェクト事業	真如苑の助成で、音楽・美術・演劇・文学・映像の各分野を支援。二戸・宮古の演劇交流、みやこ市民劇指導者派遣、旋風の劇場等の支援。	通年	県内	4名	参加者・観客総数 2,430名	26,670
	7 職員・会員研修	施設職員に基礎的な舞台技術の研修を実施。新採用職員等には「文化施設の役	5月 12月	宮古 盛岡	2名	参加者のべ18名	0

		割」「制作基礎」の研修を実施した。					
3 企 画 制 作 事 業 お よ び 鑑 賞 事 業	1 本部・風のスタジオ企画事業（招聘・提携含む）	<p>○朗読劇「高橋克彦百物語」 もりおか町家物語館「お化け屋敷」と連携し4作品3公演を実施。</p> <p>○風のスタジオプロデュース 旋風の劇場 vol.1「肴町右往左往物語」（演劇）※旋風の劇場 vol.2「SPR.O UT」（ダンス・パフォーマンス）は COVID-19 対策により公演中止。</p> <p>○（提携）市内3大学合同公演「べるちゃねっば」</p> <p>○（提携）マームとジプシー「マームと誰かさん」</p> <p>○（提携）チャレンジシアター 2団体公演（再掲）</p> <p>【創造・創造型企画】</p> <p>○令和2年度事業「岬のマヨイガ」（柏葉幸子原作、詩森ろば演出）の企画準備・出演者公募を実施。</p>	8月	盛岡	3名	3公演 総観客数 155名	753
			1月	盛岡	3名	公演観客数 347名	
			通年	盛岡	1名	総観客数 383名	
			通年	県内	1名		
						出演者応募者291名(3月末現在)	
	2 もりおか町家物語館企画事業（招聘・提携含む）	<p>○もりおか町家物語館「MACHIYART2019」「お化け屋敷」「手仕事展」ほか展示企画。</p> <p>○「ひな祭りライブ」「黒川さんさ」など</p>	通年 随時	盛岡	6名	展示観客数 12,013名	-

		<p>○田上パル「Q学」(地域創造連携プログラム助成事業)</p> <p>○したまち小劇場祭 (JAZZ LIVE は COVID-19 対策により中止)</p> <p>※事業費は「4-2 指定管理事業 もりおか町家物語館」に合算。</p>				<p>小劇場祭 観客数 399名</p> <p>総観客数 22,797名</p>	
	3 宮古市民文化会館企画事業(招聘・提携含む)	<p>○芸術文化事業(学校鑑賞事業4本、一般鑑賞事業4本、その他事業4本)</p> <p>○自主企画事業7本(みやこ市民劇公演、子ども劇団みやこデイジー公演、ダン活事業、ARTSforU18事業、日本舞踊A.I.R等)</p> <p>※みやこ市民劇第2回公演「鍛ヶ崎エレジー」</p> <p>※事業費は「4-3 指定管理事業 宮古市民文化会館」に合算。</p>	<p>通年 随時</p> <p>2月</p>	宮古	7名	<p>総観客数 22,439名</p> <p>市民劇 参加者数 206名 観客数 1,600名</p>	-
4 施設 管理 運営	1 風のスタジオ、風のアトリエの管理運営	<p>風のスタジオ 利用日数216日 (前年157日)</p> <p>風のアトリエ 利用日数122日 (前年88日)</p> <p>リハーサル室</p>	通年	盛岡	3名	<p>利用者数 3,820名</p>	4,275

事業		利用日数 210 日 (前年 144 日) 利用料金 3,073,137 円 (前年 2,038,659 円)					
	2 指定管理 事業「もりお か町家物語 館」	浜藤ホール利用日数 183 日 (前年 156 日) 利用料金 622,340 円 (前年 424,010 円) 企画事業各種 (詳細は「も りおか町家物語館事業」を 参照)	通年	盛岡	7 名	来館者数 61,040 名	39,925 (3,773)
	3 指定管理 事業「宮古市 民文化会館」	大ホール利用日数 141 日 (前年 155 日) 利用料金 7,352,440 円 (前年 8,239,594 円) 企画事業各種 (詳細は「宮 古市民文化会館事業」を参 照)	通年	宮古	8 名	利用者数 51,377 名	94,704 (22,439)
	4 その他の 施設の指定管 理者応募	○「サンライフ盛岡」指定 管理者応募 (不採択) ○「陸前高田市民文化会 館」指定管理者応募 (不採 択)	7 月 1 月	盛岡 陸前 高田	- -	- -	- -
	1 子ども演 劇、ジュニア オーケストラ の育成・支援	○子ども劇団みやこデイ ジー公演及び活動サポー ト。(宮古市民文化会館事 業) ○「みやこジュニアアンサ ンプル」活動継続を支援 (宮古市民文化会館事業) ○ジュニアオーケスト	通年 通年 2 月	宮古 宮古 県内	2 名 1 名	参加者 12 名 観客数 196 名 参加者 12 名	- -

5 社会教育・教育普及交流・復興支援事業		ラ・いわてフィル合同演奏会 (いわて文化振興プロジェクト) ※事業費はそれぞれ「宮古市民文化会館企画事業」「文化振興プロジェクト」に合算。				ジュニア参加者 16 名	
	2 いわて文化支援ネットワーク事業 (岩手県NPO等による復興支援事業助成「文化芸術によるコミュニティ形成事業」)	演劇交流事業 (沿岸と内陸部) や沿岸朗読劇ワークショップ、震災掌編小説の発行、3.11 文化復興フォーラム開催、文化支援のコーディネート、啓発事業、人材育成事業、文化ニーズのアンケートなどを実施。	通年	県内	4 名	参加者・観客 528 名 発行冊子 900 部	5,223
	3 文化芸術コーディネーター事業	県からの委託事業 (盛岡広域圏、沿岸広域圏) 県民の文化芸術活動支援のアドバイスやコーディネート、各地域にてネットワーク会議などを実施。	通年	盛岡 沿岸	3 名	約 69 件	70
	4 風の公民館事業	◎「風の公民館事業」 ○風のアトリエ等 アーツいわて塾 (再掲) ○もりおか町家物語館 弦楽器の学校、蓄音機の学校、オラホの盛岡弁塾、盛岡芸妓お座敷体験講座、ソメモノの学校ほか (再掲)	通年	盛岡 宮古 二戸 盛岡	1 名 6 名	-	-

6 そ の 他	1 施設喫茶店の運営、ミュージアムグッズ等の製作販売	もりおか町家物語館内喫茶店「DOMA」およびプレイガイドの運営。 ミュージアムグッズの販売 収入実績額 2,067,597 円 (主に販売手数料収入) なお、DOMAでは「お酒の学校」等の企画事業を実施。	通年	盛岡	4名	利用者数 2,475名 お酒の学校等 参加者 53名	2,320 165
	2 文化芸術推進計画の策定支援と提言	理事長が中心となり県及び市町村の文化施策に対するサポート及び提言等を行った。	通年	県内	1名	岩手県及び盛岡市等	0
	3 各種共催事業の推進	(共催)三陸国際芸術祭共催および実行委員会参加 (3月はCOVID-19対策により中止) (運営協力)岩手芸術祭映像フェスティバル	11月 3月	県内 宮古	2名		0
			11月	盛岡	2名		0

(2) その他の事業 (収益事業)

特になし